

令和8年(1月～4月)に九州管内で発生したガス事故(ガス事業法関係)について、次のとおりお知らせします。

令和8年4月30日末現在
九州産業保安監督部

番号	事故発生日	事故発生場所	ガス事業区分	事故の種類 (被害の程度) 【段階別】	事故概要
1	3月4日	大分県	小売 (特定)	供給支障 【供給】	他工事業者が大雨に備えるため暗渠の工事を実施していた際、本支管(白管:口径100mm)の継手部を損傷し、ガス漏えいが発生したことから、ガス事業者へ連絡が入った。ガス事業者が緊急出動し、安全確保のため、特定製造所の元バルブを閉止し、供給支障(497戸、7時間)が発生した。 【原因:他工事による本支管損傷に伴う供給支障】
2	3月9日	大分県	小売 (特定)	供給支障 【供給】	需要家から「ガスが使えない」とガス事業者へ頻りに連絡があり、緊急出動し、特定製造所【50kg容器(サイフォン型)】の点検を実施したところ、感震自動ガス遮断装置が作動し、供給支障(495戸、5時間30分)が発生していた。ガスの使用量が多い時、液自動切替装置によって供給側から予備側への切替動作が行われ、液とガスの混合状態で気化装置側へ送られたため、気化装置出口で急激な圧力低下が発生し、感震自動ガス遮断装置の使用圧力を下回り、感震自動ガス遮断装置が作動した。液自動切替装置の切替圧力を変更した。 【原因:液自動切替装置の切替圧力の不備による供給支障】
3	4月11日	福岡県	小売	漏えい・着火 (物損) 【消費】	需要家から「鑄物コンロ点火時に強化ガスホースから出火し、ガス栓を閉止して火を消した。」と連絡があり、ガス事業者が現場に出動したところ、鑄物コンロに接続された強化ガスホース(機器側接続部)が焼損していることを確認した。また、強化ガスホースが劣化しており、発砲液にて焼損部の亀裂から漏えいを確認した。鑄物コンロの炎・熱の影響を受けやすい、近い距離に強化ガスホースを取付けていた。 【原因:強化ガスホースの劣化による漏えい・着火】